

“鍼灸師の視点”で行った介護予防運動！

福島県内初の地域支援事業 2012年6月～8月

柏原 修一

■「地域」と「鍼灸」を結びつきたい！

（社）福島県鍼灸師会は公益目的事業の柱の一つとして介護予防に取り組んでいます。これは、鍼灸は家庭医療であるとの視点から、地域と鍼灸を結びつける大きな役割が期待できるからです。

ここ、いわき市では介護予防運動指導員（国立長寿医療研究センター認定・登録）の有志6名が「いわき はり・きゅう介護予防チーム」（注）を結成し、地域支援事業の受託に向けて活動した結果、今年3月に受託が決定しました。

さあ「県内初の地域支援事業」のスタートです！



みんなで気持ち良くストレッチ

が、参加者の中には震災で家を失い、避難所生活を余儀なくされている方も含まれていましたので、心身両面のケアには細心の注意を払いました。

とにかく初めての経験なので、福島県鍼灸師会はもとより、すでに大きな実績をあげている東京都鍼灸師会の全面的なバックアップは大変ありがたかったですね。

教室を開いて間もないころは、雰囲気は若干の固さがあったものの、参加者の皆さんに満足していただけるようチーム一丸となって頑張ることができたのではと思っています。



1.2.3...かけ声あわせて筋トレ

■始まったら吹っ飛んだ最初の不安

受託が決定して以来準備を進め、合計12回の転倒・骨折予防教室を開催しました

■もっと出そう「鍼灸師としての特色！」

まずは今回の事業を事故なく無事に終わることが第一の目標でしたが、加えて高齢

者の健康維持に関する講義に「鍼灸師の視点」で考えた内容を取り入れて実施し、また、きめ細かい参加者の体調管理等を行うことで、「さすが鍼灸師だ!」と言われるような特色をもっと出したいですね。



参加者の皆さん、お疲れ様

(公社)日本鍼灸師会が行う介護予防運動指導員養成講座で認定・登録された皆さんが各地で取り組まれています。今回私たちが行ったことは、その活動とともに地域における鍼灸の認知度向上につながることで・・・期待に胸がふくらみます。

[注：橋本修一、粒来和正、新田隆、草野健一、永山剛士、柏原修一]

第19回 郡山シティーマラソン大会 ボランティア治療活動報告

スポーツ治療チーム事務局 今泉洋平

郡山シティーマラソン大会は今年で第19回目を迎えました。震災による中止を挟んで、再スタートとなる大会が迎えられたことを、郡山市の一市民として大変喜ばしく感じます。

会員の皆様のご協力のもと、鍼灸治療による市民スポーツのサポートを通して、地域社会に貢献するボランティア活動を実施しましたので、ご報告いたします。

1. 日時：平成24年10月8日（月曜日・体育の日）
2. 場所：郡山開成山陸上競技場
3. 活動時間：午前7時～午後2時
4. 治療内容：

①利用者について

- ・ 利用人数：74名（男子50名、女子24名）
- ・ 地域：県内66名、県外8名
- ・ 過去の大会で利用経験あり：23名

②治療について

- ・ 時間帯

レース前	15名
レース後	50名

※非ランナー9名

- ・ 症状

筋疲労	25名
筋肉痛	22名
関節痛	12名
肉離れ	3名
筋痙攣	1名
捻挫	1名
その他	23名



※その他：坐骨神経痛、シンスプリント、半月板傷害、足底腱膜炎、腸脛靭帯炎 等

- ・ 部位

首肩	8名
腰背	28名
大腿	21名
膝	13名
下腿以下	36名

- ・ 治療の種類

鍼灸	37名
マッサージ	45名
テーピング	6名



以上の集計から、例年と大きく異なるのは利用人数です。前回大会では 160 名を超える利用がありましたが、今回は 75 名と激減しました。大会参加人数も少ないのですが、その分を考えても大きな減少です。これは、会場のレイアウト変更が大きな要因となっているようです。今大会は、ランナーの動線を整えるためにスタート・ゴール位置が変わり、ゴールした選手が我々のブースに気付かずに帰ってしまうため、利用者が減ったようです。多くの方々に利用してもらえよう、次回大会にむけて大会事務局と協議し、利用しやすい治療ブース作りを考えていきたいと思えます。

今大会は、日鍼会の全国大会と日程が重なり、例年参加している先生方が何名も不参加となりました。また学生の研修兼補助も例年通り各専門学校へ依頼しましたが、テスト期間と重なったためか参加申込みはありませんでした。そのような事情により、参加メンバー17名で例年より小さいチーム編成となりました。しかし、小さいチームながら、参加された先生方のご協力とスポーツ治療チーム事務局前任の遠藤賢一先生のご助言、また(株)カナケン様のご協力を頂き、お陰様で無事に終えることができました。この場をお借りして、皆様にお礼申し上げます。

次回の郡山シティーマラソン大会は、例年通り4月29日に開催される予定です。多くの先生方のご参加をお待ちしております。

ファミリーフェスタから鍼灸医療の未来へ向けて

白井 和弥

【事業報告】

今年の9月30日（日）青空の下、郡山カルチャーパーク・カルチャーセンターにおいて『ファミリーフェスタ 2012』が開催されました。ファミリーフェスタとは、子どもから高齢者まで幅広い年齢層の市民に、実際の体験により、健康や福祉に関して理解を深めてもらうイベントであります。「こども」「介護・福祉」「障害福祉」「保健」の四部門のうち、私たち福島県鍼灸師会は保健部門の中にブースを設けました。当日は好天のおかげか大勢の来場者に恵まれ、私たちのブースにも100名近くの市民の方々が訪れました。ここでは鍼灸の体験治療や、東洋医学の健康相談などを施しました。

この「ファミリーフェスタ」という保健・福祉のイベントですが、私たち福島県鍼灸師会は10年以上継続して参加を続けております。以前は「東洋医学クイズ」など、来場者の方々に楽しんでもらえる催しもしていましたが、ここ数年間は「鍼灸の体験」と「健康相談」の内容が主となっております。

わたくし白井は、2009年のファミリーフェスタから参加を続けて今回で4回目の

参加となりました。毎年、多くの来場者が鍼灸治療体験を受けられて「鍼は痛い」とか「灸は熱い」などのマイナスのイメージから「あれ、思ったほど痛くない」や「暖かくて気持ちがいい」という感想を聞きます。技量を備えた鍼灸師ならば、患者に熱さ・痛さを我慢させずに、心地よい刺激にて治療することが可能であるという事実が伝わると、来場者の方にとっても私たち鍼灸師にとってもお互いが嬉しくなる思いがあります。鍼灸にプラスのイメージを持っていただいた方が将来、体や心の不調をきたした時に、鍼灸を希望して受療され、そして回復に向かっていくことを願う次第です。



【次回への課題】

鍼灸の体験や健康相談業務により、鍼灸医療の普及活動を担っているかと思いますが、来年の次回には今までの反省や課題を踏まえて取り組みたいです。

①アンケートをとる

市民の方々が、鍼灸医療や鍼灸師についてどのように思っているか？理解がある方でも適応症など、どれくらいの理解や知識があるか？など。アンケートを集計・分析することで、今後の普及活動に活かしていく。

②カルテを作る

健康相談をしていて、現病歴や医療機関での診断や加療状況を聞いていて、症状が好転せず長引いている方がいます。そういった方が「鍼灸でなら治るの？」と質問をされますが、わずか10分程度の体験治療1回で症状が良くなるわけではありません。各々患者さんや病状によって長く治療を継続する場合もあるという説明を行うわけですが、実際にその方が鍼灸院に足を向けることは少ないと思います。そこで、鍼灸に期待・希望を持たれている方に「医療機関への紹介状」に準じたカルテ様式の「鍼灸院への紹介状」を作成し、ご近所の鍼灸院や、女性鍼灸師（もしくは女性スタッフがいます鍼灸院）へ足を運んでもらえるようなシステムを開発・運用できるようにしたいと思います。フェスタ健康相談中の問診内容・可能な範囲での身体所見などの患者

情報を、紹介された先生が事前に確認することで、スムーズに診察・施術に入れるだけでなく、双方の信頼が早くから厚くなるなどのメリットを生み出したいです。

【鍼灸の未来を思う①】

ファミリーフェスタ来場者へ毎年、上述のような鍼灸医療の普及活動を続けておりますが、時折歯がゆい思いもします。それというのは、全国各地で行われているこのような鍼灸体験治療や、スポーツ競技大会でのボランティア治療など、鍼灸の普及・啓蒙活動が果たしてどれくらいの成果を挙げているかが見えないからです。2003年から2007年にかけて毎年実施された東洋療法研修試験財団の委託研究で報告された中で、我国において1年間に鍼灸施術を利用する受療率は6～7%であると報告されています。この数字を取り上げてみても分かるように、鍼灸師の資格が病人に対し身近に活かされておらず、国民側から見ても鍼灸が医療の選択から枠外にあるのが現状です。

「鍼灸を活用した新しい国民医療の実現」と銘打って、私たち福島県鍼灸師会の親会である日本鍼灸師会は、今年度より下記『次世代日本鍼灸師会ビジョン』を進めております。

【次世代鍼灸ビジョン 日本鍼灸師会が目指す姿】

① 鍼灸がスタンダードな国民医療として認知されることを目指す

・西洋医療と鍼灸医療の連携と信頼を築き、鍼灸を活用した新しい国民医療の実現。

② 東西医学を学びチーム医療の一端を担える鍼灸師の研修の充実を目指す

・新しい卒後研修・生涯研修システムを通じて医療従事者と連携できる鍼灸師を養成。個々の学術研修単位を一元管理するシステムを運用。研修を受けた安心できる鍼灸師が国民から選択されるようにする。

③ 鍼灸の科学的研究と満足度の高い鍼灸の有用性を支援する

・鍼灸を活用した新しい国民医療の実現に向けての科学的研究を支援。

・満足度の高い鍼灸の有用性に重点を置き、医療・福祉・介護領域での活用。

④ 日本鍼灸が健全に推進するために国際的対応の支援と情報収集を図る。

・諸外国の文化・伝統医学を尊重し、我国の伝統医学である鍼灸を現代医療に活かし推進する。

⑤ 我国にとって鍼灸の存在意義が理解される日本鍼灸師会を目指す

・公益活動を通じて日本鍼灸師会があってほしいと思われる職能団体を目指す。

という上記「次世代鍼灸ビジョン」です

が、ご覧のとおり① 鍼灸がスタンダードな国民医療として認知されることを目指す←

その実現のため②～⑤の手段があるといっ
ていいでしょう。国民にとって鍼灸医療が
スタンダードになったその先に『医療人として
の鍼灸師の身分確立』や『鍼灸医療の
制度化』という鍼灸師法立法の道が開けると
思います。



②番目の学術研修単位管理システム運用の
意義、それは「他職種の医療従事者との連
携できる鍼灸師の養成」であります。それ
により、地域医療あるいはチーム医療とし
て患者さんを中心とする医療現場において、
私たち鍼灸師の専門性を医療職として活か
す道筋をつけたいわけです。鍼灸師が医療
人として医療の一端を担うには、それ相応
の臨床能力が必要なのは云うまでもありま
せん。臨床能力の要に「適応・不適応の判
断」があります。とはいえ、現代医療の現
場の中で鍼灸師が活躍するためには、適
応・不適応が判断できる西洋医学的知識で
は足りないと思われます。医師や医療従事
者と疾患について普通の協議できるレベル

に加えて、東洋医学（鍼灸）によるアプローチで治療の提案ができることが理想と思います。

③番目、大規模な科学研究により統計学的にも鍼灸の有用性が示されることが望まれます。科学的にも信頼できるデータは、国民や政治・行政を動かす材料になるはずで、鍼灸が、医療・介護・福祉領域で職域を広げられるように有用性の証明が必要です。もちろん私たち鍼灸師自身もスキルアップして、有用な鍼灸を国民に提供しなければなりません。

④番目、国際的対応と情報収集ですが、世界の動きは鍼灸の“国際標準化”へ向かっています。世界の鍼灸のスタンダードは「中医学」による「中医鍼灸」が主流といわれており、日本に輸入され、その後独自の発展を遂げた「日本鍼灸」は、世界の中では非主流となっております。鍼灸外交力を高め、日本鍼灸の良さを世界にアピールすることも、国民の鍼灸受療率増加に一役買おうと思います。諸外国の鍼灸事情を知ること、日本の鍼灸教育は十分なものか？卒後の臨床能力は国民の健康に寄与できるレベルか？など比較検討していけます。鍼灸の国際標準化の流れの中、日本鍼灸独自の長所や伝統を守ることで、世界に誇れる日本鍼灸に発展していけばと思います。

さて、上記日本鍼灸師会の次世代鍼灸ビジョンに対する私の感想や意見でしたが、さて地方会たる福島県鍼灸師会はどのよう

なビジョンを持つのでしょうか？地方の末端の会員たる私たちに、鍼灸の未来に向けて何ができるのでしょうか？

【鍼灸の未来を思う②】

現在の鍼灸・鍼灸師の諸問題は多岐に渡り複雑難解で、構造そのものを見直して改善していかなければなりません。ひとつ直せばすべてが良くなるという簡単な作業や道筋ではないです。鍼灸師の養成・臨床研究・医学教育・医療制度などを変えていくには組織としての力が必要です。「日本の鍼灸を良くしていこう！」という気概に満ちた鍼灸師が手を取り合い、知恵を出し合い、実行に移す努力を重ねていかなければなりません。

今年8月5日郡山市民プラザにおきまして『国民のための鍼灸師法を考える』というテーマで、私たち福島県鍼灸師会会員によるワークショップが行われました。やはりキーワードは『国民のため』であります。鍼灸師のための鍼灸師法ではなく、国民のための鍼灸師法。次世代の鍼灸ビジョンも同様、国民のための次世代鍼灸ビジョンです。現在の鍼灸師の身分（立場）、制度的な問題を福島の会員同士で意見を出して集約できたことは実に意義深いものでありました。福島県の鍼灸医療を守り発展させるのは、他でもない私たち福島県鍼灸師会とその会員であります。さきほどのキーワード『国民のため』を絞っていくと、県民のため→市民のため→近隣コミュニティのため…と、より身近な存在の人々が対象となり

まず。本会副会長 中沢良平が代表を務める「福島県プライマリ・ケア鍼灸師育成会」が見据える『地域包括ケア』と『他職種協働』という発想。鍼灸の未来に向かい、福島県鍼灸師会という地方会、末端の会員たる私たちに必要な発想であります。まずは地域住民の健康のために、近医をはじめとする医療従事者、介護・福祉施設のスタッフと協議する機会をもつ努力を重ねていければと思います。地道な相談とお願いを続けることにはなりますが、医療、介護、福祉分野との連携・協調が次世代鍼灸ビジョン実現に必要です。



私事にて恐縮ですが昨年、わたくし白井夫婦の間に待望の第一子、娘を授かりました。初めての育児ということで毎日が慌ただしく過ぎていきますが、我が子の成長を日々感じられる幸せを感謝しております。

わたくし自身が親になって思うことがあります。我が子の将来も大事だけど、娘と同世代の子供たちにも、健全な成長と平和な未来を迎えられるようにと。そのために我々親の世代が頑張っていくのだと思いました。

親心。「鍼灸」を我が子に重ねてみる。「鍼灸」そのものがどんなに高い可能性・能力をもっている、それを発揮する場面がなければ意味を失う。我が子の長所を伸ばし、短所を補って、才能を努力で開花させて、それを発揮させてやる環境を整える。それが親の役目であり生きがいでもある。鍼灸の次世代に向けて、鍼灸の実力が発揮できる世の中になるように、世の中を変えていけるように、親心を持って臨んでいこう。以上